

(1) 道徳学習指導案と総括

第5・6学年 道徳学習指導案

平成26年11月28日(金)
5年 2名(男子1名・女子1名)
6年 2名(男子0名・女子2名)
授業者 渡辺 昌幸

1. 主題名 きまりに厳しく〔高〕4－(1)
2. ねらい 法やきまりの意義を理解し、進んで守ろうとする意義を高める。
3. 資料名 ここを走れば(出典:きみが いちばん ひかるとき 光村図書)
4. 主題設定にあたって

○指導内容観

中心とする指導内容は、4の視点「主として集団や社会と関わること」の(1)「公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にし、進んで義務を果たす。」である。児童が成長する過程においては、社会や集団の規範をより身に付けていくことが大切である。

まずは、約束やきまりを守ろうとする意識を持ち、行動化できるように意識して指導評価することが大切であると考え。また、きまりの持つ意義についても考え、規範意識や態度を育て、よりよい社会をつくろうとする精神を養いたい。

○児童観

5・6年しかいない本校ではあるが子どもたちは共に関わり合いながら、伸び伸び生き生きとした学校生活を送っている。また、決められたことは守ろうとする姿勢もある。ただ、よりよい学校生活を送るために自分を律し、さらに集団として伸びようとする意識は低い。

本資料の学習を通して、「法やきまりの意義を理解し、進んで守ろうとする。」意識をさらに高めたいと考えている。

○指導観

本資料は、倒れた祖父に会いに行こうとした時に、事故のため渋滞に巻き込まれ、思うよう進めず先を急ぐぼくが、「路側帯」を走るよう父に提案する。そんなぼくに対して父親は、「路側帯は、緊急車両が走るところだから走れない。」ときっぱり言う。結局、到着した時には祖父が亡くなったあとだったことから、ぼくは「あの時、路側帯を走っていたら…」と考える。しかし、父の目からこぼれる涙をみて「はっ」とするという内容である。

祖父は「人に迷惑をかけることが一番きらいな厳しい人だ。」などのことばを手がかりに、自分さえよければという自己中心的な考えを持たず、自律的で高い規範意識をもっている父親の生き方を、ぼくの視点に立って考え、共感させ、価値を高めるような学習としたい。

5. 学習指導過程

	学習活動	主な発問(○)と予想される児童の反応(・)	学習活動への支援(○)と評価(☆)
導入	1. 高速道路の映像を観る		路側帯について理解させる
展開	2. ①資料について知る ②内容について考える	範読する ○おじいさんが倒れたという知らせを受けた時のぼくについて考えよう ・びっくり ・だいじょうぶかなあ ○路側帯を走っていく車を見ながら、ぼくはどんなことを考えたと思いますか。 ・これは、いい方法だ ・ぼくたちも通っていいだろう ・ぼくたちも急いでいるんだ ○いつもとちがう厳しい父の表情を見てぼくの心の中はどうかだったでしょうか ・お父さんどうしたんだろう。 ・何があったんだろう。 ◎お父さんの涙を見てぼくはどう思ったのでしょうか ・ぼくも、どんな時でもきまりを守ろうとする大人になろう	○やさしいおじいさんにはやく会いたい気持ちをつかませる ○ぼくと妹について考えさせる ☆どんな状況であれ、法やきまりを守ろうとする態度を理解しているか。 ※ワークシートに記入
終末	3. 教師の説話を聞く	○学習してどう思いましたか	○これからの生活について考えさせる

※準備物・・・ワークシート、挿絵

第6学年さくら学級 道徳学習指導案

平成26年11月28日(金)

女子1名

授業者 高坂 昌子

1. 主題名 みんな違ってみんないい
2. ねらい 自分の特徴に気づき、よさを伸ばそうとする心情を育てる。
3. 資料名 うめのき村の4人兄弟(出典:ゆたかな心で 東京書籍)
4. 主題設定にあたって

○指導内容観

中心となる指導内容は、1の視点「主として自分自身に関すること」の(5)「自分の特徴に気づき、よい所をのばす。」である。この項目は、児童が自分をしっかり見つめて個性の伸長を図るために、積極的に自分のよさを伸ばせるように指導するものである。

まず、自分の成長の可能性と課題を実感できるようにすることが大切である。それは、人間としての誇りを自覚することであり、自尊感情をはぐくむことになる。すべての成長の可能性を良さととらえ、全体に目を向けられるようにしたい。

○児童観

児童は、友達と関われることを喜び、一緒に行動しようとする姿が見られる。しかし、遊びの中ですぐに勝負に負けてしまうことから、楽しくなくなり輪から外れてしまうことがある。また、学習面でも皆と同じようにしたいけれど、できないことがある。そういう時は、自分に自信をなくしがちになる。

本資料の学習を通して、「自分の良さを自覚し、そのことから自信を持って生活しようとする。」気持ちをさらに育てたいと考えている。

○指導観

本資料は、うめのき村の4人兄弟は、性格やできることなどがそれぞれ違っていった。ある日、嵐が来ると分かった時、おとうは4人兄弟の特徴を捉え、嵐に備え指示し、兄弟たちは、それぞれの持ち味、特長を生かして自分のできることを一生懸命やり、嵐を乗り越える話である。一つの目標に向かって、1人1人違う持ち味をそれぞれ生かすことにより、結局は協力して物事に対処できるのである。「みんな違ってみんないい」ということがテーマになっている。4人兄弟が、自分のできることを一生懸命やっていることなどに共感させ、自分の良さを伸ばそうとする気持ちを高めるような学習としたい。

5. 学習指導過程

	学習活動	主な発問(○)と予想される児童の反応(・)	学習活動への支援(○)と評価(☆)
導入	1. 自分の長所を発表する	○自分の良いところは、どんなところですか ・元気に挨拶をする ・親切なところ	○自分の良さ、頑張っていることを書いたものを発表させる
展開	2. ①資料 「うめのき村の4人兄弟」の前半を読んで考える ②資料 「うめのき村の4人兄弟」の後半を読んで考える	○どんな兄弟たちだろう ・体がとても大きくがっしりで力持ち (いちろうた) ・細かいことが大好きで、物作りが上手 (じろうた) ・どんな動物とも仲良くなる (さぶろうた) ・おっとりとしていて、雲を見たり、風の音を聞いたりしていた (しろうた) ○嵐が来た時、兄弟たちのしたことについて、気づいたことを出しましょう	○みんなの特徴がそれぞれ違っていることをつかませる ○それぞれにあった仕事をしていることをつかませる ○自分のできることを一生懸命している
終末	3. 友達の良さを認め合う	○窪津小の5名が、友達の良いところを見つけています。誰のことでしょう	○それぞれの良い点を書かせておくようにする ☆友達の良さに気づけているか ☆これからも、できることをやっという気持ちになれているか

※準備物・・・場面の絵

<道徳授業総括>

【5・6年学級】

- ・教師と児童のよい関係ができています。
- ・葛藤する父の気持ちについて考えることができた。
- ・日々の指導の積み重ねがわかる授業であった。
- ・自分とちがう意見をうけとめ、新しい意見が自分の中で生まれてくることはとても大切なことだと思うので男子児童の発言が特によかった。
- ・教師がどんな学級を目指しているのかがわかる授業であった。
- ・子ども達の授業の振り返りがよかった。
- ・楽しそうに授業に取り組んでいた。
- ・子どもたちは非常に高い意識をもって授業に取り組んでいることがよくわかった。
- ・計画的な板書ができていた。
- ・路側帯を走らない父の姿に最後は共感できていた。
- ・子どもの意見をひろいあげて、もう少し価値にせまる展開をすべきであった。
- ・説話のタイミングが難しかった。
- ・厳しい表情の父に対しての発言をもう少し広げていったほうがよかった。
- ・ぼくの気持ちに変容していく部分にもう少し時間をかけたほうがよかったのではないかと感じた。
- ・意見を戦わせるような場面を見たかった。
- ・父の流した涙の理由についてももう少し迫っていければ、価値観についてより深い理解ができたのではないかと。

【さくら学級】

- ・指導者としては、考えさせることを授業のメインにおいていたため、前半はあわててしまった。
- ・とても嬉しそうに授業をうけていたことが印象的だった。
- ・内容的にも充実しており、友だちとの日々の関わりのよさが見受けられるような授業であった。
- ・参観されることで(がんばって授業しよう)という意識が高まったようだ。
- ・友だちに認められたことで、明日からの生活の中に活かすことのできる教材選び、授業構成ができていた。
- ・資料の与え方がよかった。
- ・発問の仕方もよかった。
- ・おだやかな雰囲気ですべての授業が進んでいった。